

説教「見なくても信じて生きる幸いを」

創世記一五・五〜六

ヨハネ二〇・二四〜二九

今日、心に留めたいイエス様のお言葉が二つです。一つ目は「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」(ヨハネ二〇・二七)。二つ目は「見ないのに信じる人は、幸いである」(ヨハネ二〇・二九)。十字架で死んだイエス・キリストが死人の内より甦られた、ご復活された、と信じよう。死んだ人が甦るなんて普通は信じられませぬ。でも本当にキリストは甦ったのです。

♪ああ、キリストは、本当に甦ったのだ、

ハレルヤ、ハレルヤ、アーメント

皆さんも「本当にそうだ、アーメン」と信じて、歌って欲しい。キリストが甦られた出来事です。

十字架から金、土、日の三日目のことです。

イエス様は甦られました。イエス様はマグダラのマリアに頭れました。それでマリアは「私は主を見ました」(ヨハネ二〇・一八)とお弟子さんたちに伝えます。ところが、せっかく良い知らせを聞いたのに、弟子たちは信じられません。その日の夕方、弟子たちがいた家の中にイエス様が来られて「あなた方に平和があるように」と言われました。そして十字架の傷跡のある手と脇腹をお見せになりました。弟子たちは主を見て喜んだのでした。ただその時、そこにトマスはいませんでした。

その後トマスがやって来たので、他の弟子たちはきっと興奮して口々に「私たちは主を見

た」とトマスに伝えます、でもトマスは、その知らせを聞いても、お甦りを信じるのがなかなか出来ませんでした。理由は簡単です。死人が甦るなんてそんなことあるか。その気持ちは、あると言うなら、証拠を示してもらいたい。トマスは他の弟子たちに言いました。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をその脇腹に入れてみなければ、私は決して信じない」(ヨハネ二〇・二五)。それから八日の後、皆の所に主イエスが頭れ、トマスにも語りかけます。「あなたの指をここに当てて、私の手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、私の脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい」。聖句カードを見て下さい(二〇〇三年度版No.5)。



手の傷跡をしっかりと見ています。十字架で死んだあのイエス様が本当に甦ったのだ。このイエス様に出会って信じる者になりました。跪いています。礼拝の姿勢になっています。イエス

様を神様だと信じたからです。私に頭れ、私の罪を十字架で負って下さった私の神様だと告白出来ました。「私の主、私の神よ」と答えました。

今日、心に留めたいイエス様のお言葉二つ目は「見ないのに信じる人は、幸いである」。十字架の傷跡のあるイエス様がトマスに出会って下さり、トマスはお甦りのイエス様を確かに見ました。本当に甦ったのだ。そう信じました。トマスだけではありません。他の弟子たちも、「私たちは主を見た」。マグダラのマリアも「私は主を見ました」。見て信じました。ですから、イエス様が甦られたことは、思い込みではありません。まして頭で考えて悟りを開いたということでもありません。ご復活の出来事です。

それでイエス様がいきました。「私を見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである」。私が甦った、死人の内から復活した。本当だろう。確かに見ただろう。確かに見て確信して信じたのだから、見た以上は、もうこれからは、その都度私を見なくても信じられるね。あなたたちは「私たちは、主を見た。ああ、キリストは本当に甦ったのだ。ハレルヤ、ハレルヤ、アーメント」と見たことを宣べ伝えなさい。そうすれば、あなたたちから聴いた人たちも、見なくても信じて生きる幸いを知らう。

そしてもう一つ、復活の主イエスを見た以上は、自分たちも死んで終わりではない。弟子たちは、全ての人たちも甦らされる、そう信じました。私たちの甦りを宣べ伝えていきます。